

## 事業活動報告（'18.4～'19.3月）事業所名：地域活動支援センター絆

<h3>1.2018年度 事業所方針</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>・亀岡在住の主に知的障害や障害のある人たちがこの地域の主人公として、いっそう心豊かに、主体的に暮らしていけるよう、生きる力を強める支援をします。</li><li>・利用者のニーズを探り、一人一人ほっとできる場、落ち着ける場の模索をしていきます。</li><li>・センターの職員間で報告・連絡・相談していきます。</li></ul>
<h3>2.利用者・職員状況</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>・現在、23名（今年度、新規5件）の方が利用登録、サロンの利用をされている。 利用者の年齢層は18歳から70歳までと幅広く、障害の種類も知的、精神、身体と様々な障害の方がおられる。</li><li>・職員：専従1名、非常勤1名</li></ul>
<h3>3.実践内容と成果</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>・利用者の年齢層は18歳から70歳までと幅広く、障害の種類も知的、精神、身体と様々な障害の方が利用されている為、利用者一人一人に合った支援が求められる。地域活動支援の良い面として、その日の体調や自分の好きなタイミングで利用できる為、気軽に利用しやすいようだ。集団活動が苦手な方でも、繋がり続けることができる場になっている。自分のタイミングで来所できる為、天候によっても来所される顔ぶれが毎日変わってくる。利用者の顔ぶれが毎日変わるため、活動の事前準備が難しく日々臨機応変な対応が求められる。 今年度、10月より週5回昼食づくりの取り組みをするようになり、今まで以上に利用者の「絆で食事が食べたい」というニーズに応えられるようになってきた。しかし、利用者の高齢化もあり、最近では喉を詰まらせヒヤリとすることも増えてきた。好き嫌いだけでなく、その人のあった食事の提供（刻み、湯通しなど）の仕方が求められる。喉の詰めやすい利用者が来所されたときは、安心して食事が食べられるよう、支援員が隣に座り、何かあったときすぐに対応ができるようにしている。利用者一人ひとりが安心してサロンの活動を楽しんで頂けるよう、無理なくサロンが利用できる方法を、本人と話をしながら一緒に検討していきたい。</li><li>・今年度の外出取り組みは、サロン利用者の高齢化や若い方でも体力に不安のある利用者が多い為、公用車で外出した。とっておき芸術祭へ絵の出品した関係や、利用者の負担を考え1時間程度で行ける京都市動物園に行くことに。生活保護や年金のみで生活している人が多い為、今回は朝からサロンで弁当を作り外で食事をする。動物好きな利用者が多く、とても興味深そうに動物を観察されていた。<ul style="list-style-type: none"><li>・月一度、交流企画として支援センター圭の利用者と一緒に手芸をする時間を今年度継続して行ってきた。それぞれ興味のあることを持ち寄っての参加になる為、刺繍、UVレジン、カバンづくりなど作る内容は人それぞれである。参加者は女性が多い為、手作業をしながら、おいしいランチの店や、パン屋の紹介、手芸材料購入場所の情報など、話をしながら取り組んでいる。来年度も継続して、手芸教室だけでなく、花見など交流の場を増やしていきたい。</li></ul></li><li>・今年度、とっておき芸術祭やきょうされんグッズデザインコンテストに絆の利用者の絵を出品した。絵に興味のある方が数人おられるので、個人的に絵の活動をされるだけではなく、活動の中でも取り組む時間を作ることで、お互いに刺激しあう場にしていきたい。</li></ul>

#### 4 次年度への課題とそれに対する取り組むべき具体的な実践内容

##### ○新しい取り組み内容の検討

- ・・・法人メンバー学習会の参加や事業所見学等
- ・・・とっておき芸術祭やきょうされんグッズデザインコンクールの参加など見通しの持ちやすい取り組み。(絵が苦手な方は写真を撮っての参加など工夫をして)
- ・・・地域のコンサートの参加 など

##### ○交流取り組みの継続と課題の整理

○外出取り組みの工夫・・・足腰に不安がある方でも参加しやすい場所

○集団対応が難しい方や高齢の方に向けての居場所づくり

○高齢の方や、自主通所が難しい引きこもりの方への通所方法や居場所づくりについて

○将来ビジョンに向けての検討をすすめる